

卅斤、

右起三月一日盡八月卅日供之、

〔延喜式三十八掃部〕内膳司造供御粉熟料、席二枚、簀二枚、三年一充、

〔西宮記二月〕列見

史申裝束畢由立石階東壇穩座先撤宴座敷穩座不撤史座便爲近邊諸司上卿已下著穩座、註辨

少納言著座、註三獻畢、居粉熟餅

〔執政所抄上月〕元日 御節供事

殿下御料朱器○

粉熟在小角豆汁

〔定家朝臣記〕康平四年十二月廿日己亥有太政大臣召事自去十八日未刻殿下○藤原令參給、註中

出御里亭東門左大臣以下於南庭有拜禮左近少將後此間秉燭各以著座次立尊者已下机居肴物、

○中 二獻二位中將居粉熟

〔空穗物語初秋〕北のおとゞより、まら人の御さかな、おほみきまいらせ給、それのうちつぎて、ふ

すくまいり、をものなどまいらせ、略○中

〔源氏物語四十九寄生〕御うぶやしなひ、略○中 五日の夜、略○中 宮のおまへにも、せんかうのおしき、たかつ

きどもにて、ふすくまいらせ給へり、

〔倭名類聚抄十六飯餅〕餛飩 四聲字苑云、餛飩渾屯二音上亦餅剉肉麵裏煮之、

〔箋注倭名類聚抄四飯餅〕方言、餅謂之餛、或謂之餛、或謂之餛、玄應音義引廣雅云、餛飩餅也、齊民要術

有氷引餛飩法、北戸録引作渾屯、云字苑作餛飩、顏之推曰、今之餛飩、形如偃月、天下通食也、按正字

通、今餛飩卽餛飩、別名俗屑米麩爲末、空中裏餛、類彈丸、凡形大小不一、籠蒸啖之、食物志曰、餛飩或

餛飩